桐島サトシアートワークス

2d Illust Collection

Kirishima Satoshi Artworks

立ち読み版

Magazine & Comic Works
3-16

Beat Blades Haruka Works
17-78

Tokusou Kihei Artemis Works
79-140

Novels Works
141-270

これまでキルタイムで描かれてきた、
桐島サトシ先生の作品を
まとめたデジタルイラスト集！
小説挿絵で描かれたイラストを中心に、
これまでの雑誌の表紙や、ピンナップ画像なども含めた
大ボリュームの構成になっています！
また、本編は印刷も可能！（PDFファイルで提供の場合のみ）
お好きなシーンを手元において楽しめます！
※本編では、このテキストは掲載されていません。

闘姫陵辱35　表紙イラスト
［2008年1月］

二次元ドリームマガジンイラストレーションズ　描き下ろしイラスト
[2007年10月]

二次元ドリームマガジンVol.57　カラー小説イラスト
[2011年2月]

桐島サトシアートワークス　表紙イラスト
[2014年10月]

二次元ドリームマガジンVol.40　ピンナップイラスト
[2008年4月]

超昂閃忍ハルカ　堕ちたる上弦 淫辱の刃　口絵イラスト
［2008年9月］©ALICESOFT

「ふにゃあああああぁ……あ、あ！　あああぁっひゃにゃあああぁぁぁぁ～！」
どぶっ、どぶっ、どぶっ！　どぶどぶどぶどぶどぶどっばあああああああ！
「ふあああぁ、ひにゃ、ひにゃあああああ！で、出てるぅ……んにゃぁ、にゃ、にゃあああぁんっ！　あちゅひの、こ、こんにゃにいっぱひ……んく、ごく、ごく、ごくっ！」
怪忍の命令通り、ゲニンの射精量は凄まじかった。小さなお口は一瞬で満たされ、喉が詰まる。子宮内にも大量の精液が直接注ぎ込まれ、内臓の隅々までを子種汁に満たされた。嚥下したマタタビが身体を溶かし、直接注がれた子宮がドロドロと煮えたぎる。
（ひあああぁ……す、すごいっ！　こんな……こんなのすごすぎて、私、も、もう……！）
イク――イってしまう。これ以上は耐えられない――そう感じた刹那、
「ヌンジャ！」「ヌゥウッ……ヌンジャアアアア！」
どばっ！　どばっ！　どびゅっびゅるびゅるびゅる！　全身にペニスを擦り付けていたゲニンたちも一斉に絶頂し、大量の白濁シャワーがぶっかけられた。赤く腫れていた乳首に直接熱精がぶっかけられ、たまらない快感が乳芯にまで迸る。四方八方からぶちまけられる白濁が、紅いコスチュームとピンクのツインテールを染め替えていく。

破滅の予感が、少女の脳裏を駆け抜ける。婚約の契りまで交わした主君の前で他の男に抱かれ、女としての悦びに沈み込まされ、あまつさえ妊娠までさせられてしまうなんて――貞操観念の強い大和撫子にとって、それは死ぬよりも辛い恥辱だった。

「い、いやっ……いやです！　お願いですからそれだけは……な、中だけは許してぇ！」

これ以上ない絶望感に、身を焼く獄悦も忘れてしまう。髪を振り乱し声を張り上げ、少女は必死に懇願した。倒すべき敵に必死で縋りつき、中出しの恐怖に怯え慈悲を請う。涙にまみれたその表情は、あまりに惨めで痛々しかった。

「いいぞ、美味い……実に美味いぞ貴様の絶望は！　もっとだ、もっと喰らわせろォ！」

「いやぁ、いやぁ、いやいやいやいや……ひっぎぃいいィィ――！」

メリッ……ズブズブズブ！　狂喜を滲ませる哄笑とともに、一際強烈な挿入を見舞われた。思いきり腰を突き上げられ、真下から子宮口を串刺しにされる。仔袋の中へ直接肉棒を突き刺される虐悦に、再び絶頂してしまう淫乱くノ一。意識がとんだ瞬間――、

ドバ！　ドバドバドバ！　ドブドブドブドブドッバアアアアアア――――！

「うあああぁ、で、出て……うあああぁぁ熱いのぉ、中にいっぱい、しきゅーの中にまで、い、いっぱい……いっぱひ出されちゃってるうううう～！」

「ねえ、あなた。スバルのお尻の穴は、この前犯した子よりも気持ちいいかしら？」
「はいっ！　この前犯したナリカって娘よりも、スバルちゃんのお尻の方が、エロい動きしてますよ。ケツも大きくて色っぽくて、エロさではスバルちゃんの圧勝ですね」
尻穴を犯している男が、得意げな口調で答える。
「ナリカ……？　くぁ、はぁぁんっ！」
初めて耳にする閃忍の名にピクリと反応したスバルであったが、犯されている尻穴の奥から込み上げてくる悦波に意識を持っていかれてしまう。
「ナリカの肛門はすごくきつくてなかなか気持ち良かったけど、スバルちゃんの肛門は、奥の方までウネウネ蠢いて絡み付いてきて、まるでオマ■コみたいで別格の気持ち良さだよ！　おおおっ、締まって、蠢いて……くぅぅ、気持ち良すぎる！　出るッ！」
尻穴の奥に、ドクッ、ドクッ、と熱い精液が吐き出された。
「ナリカとは？　どんな？　ひゃぅ、はぁぁぅ！　奥に……出て……あっ、イッ……イク……ううぅっ！　くあぁぁぁぁぁぁんっ！」
閃忍ナリカについて情報を得ようと試みたものの、絶頂癖をつけられてしまっているスバルの肉体は、耐えようとする意志を裏切って、甘美な痙攣に包まれてしまう。

特捜姫兵アルテミス　白濁の戦女神　折り返しイラスト
[2007年2月]

特捜姫兵アルテミス　白濁の戦女神　扉絵イラスト
［2007年2月］

背筋を熱い突風が吹き抜け、羞恥に張り詰めた意識がグイグイ押し上げられて――。

「ぁああっ！　そんな、そんなぁっ!?　オシッコが、イィィ、イィイッ!?　いぃ、イィイ、イく、イくイく、イッちゃ、ぁああ、ぁああうぅう――――ッ！」

ビククンッ！

マングリ返しにされた伸びやかな身体が、雷に射抜かれたように跳ね上がった。

マグネシウムランプのように一瞬で灼き切れる意識。

茹だったように赤らんだ柔肌から汗の霧がぶわっと噴き、遙かな高みへ弾き飛ばされた。

「やぇ、や、ぁああっ！　おかしくなる、おかしくなっりゃうぅううっ！」

「ンぇあ、ンぷぁ……し、思考、異常……身体が、勝手に……制御ふにょう、ふにゃぁぁあ、にゃぁあ……にゃうぅあぁぁあああっ！」

晶の両脇でマリアとデイジーも叫び、秘部を競うように腰を突き上げて――。

ピュッ！　ピュルルッ！

プッシャァァ――――――ッ!!

三人の股間からほとんど同時に、小水が迸った。頭頂をつき合わせて並んだ女神たちの顔に、微かに香る大きな滴が雨のように降り注ぐ。

乳房と膣、尻孔の悦びが、捻れる背筋で混じり合い、大きなうねりとなった。
ダメだ、止められない。
意識が押し上げられ、瞼の裏に眩い光が何度も閃く。
「ぁあっ！　あぅ、あン、はぁうぅンっ！」
あられもない声を張り上げ、見えない男に突きまくられているように全身を揺らして、絶頂へのスロープを駆け上っていくマリア。
天地の感覚が消え、身体の境界線が消えていく。
身体の中に熱いモノが爆発し、心地よい突風が吹き抜けて――。
「と、飛ぶ、飛ぶぅっ！　飛んじゃうぅぅ――――ッ!!」
ビクンッ！　ビククンッ！
絶頂に達した女体が痙攣し、伸びやかな脚が爪先までピーン、と突っ張った。
矢のような飛翔感に貫かれて背筋が捩れ、ぶじゅ、ぶじゅじゅ、ぷっしゃぁああっ！
仰向いた淫華から愛蜜の霧が噴き、黄金色の小水が勢いよく迸る。

二次元ドリームマガジンVol.64　表紙イラスト
[2012年4月]

二次元ドリームマガジンVol.64　ピンナップイラスト
[2012年4月]

いま残っているのは、迫る絶頂の予感に囚われた牝の、深く淫らな本能だけ。

熱く濃い精液を少しでも早く得ようとして、尻穴をキュンキュンと締め、口いっぱいに頬張った男根を無我夢中にしゃぶる。

「おお、おお……こりゃあイイッ！　最初に犯すと、こんなにも気持ちイイのかッ！」

「ン……ぷっ！　ンちゅ、ンじゅちゅ……むぷはっ！　イイ、イイ……私も、イィッ！　尻マ■コがイイの、イイのイイの……い、イィイ――――ッ！」

本能に命じられるまま卑猥な言葉を口走り、感極まってびくん！　びくくんっ！　と反り返るアリシア。

尻穴がいっそう強く搾れ、男根を包み込んだ直腸が小刻みに波打ちながら捻れて――。

「くぅうっ！」

男が低く呻いた瞬間、

――びゅくっ！　どぴゅっ！　びゅくくっ！

溶岩のように熱く粘つく精液が、女騎士の胎内に勢いよく迸った。

「あ……あああ……」

リズミカルに跳ねる小さな身体を抱き締めた男が、淫棒に感じている肉悦以上に頬を弛め、相好を崩して、息を荒げる。
「ほほう……可愛い顔に似合わず、ずいぶんとお転婆な姫様ですな。私のペニスはそれほど気持ちイイですか？」
「い、い……いぃいっ！」
「それは重畳――では、これは如何です？」
「はぅっ⁉　あひ……あぇぁああっ！」
申しわけ程度に膨らんだ微乳の尖端、桃色に痼った可憐な乳首を軽く抓られ、狂ったように鳴き叫ぶイミス姫。
痛がっているのではなく、感じているのだ。
その証拠に――。
「い、い、いぃっ！　乳首、イィッ！　しゅごいの、しゅごいの、イミスしゅごいのっ！　乳首をキュンキュンされると、イミス、イミスは……飛んじゃう、のぉっ！」
涙と鼻水、涎を垂らしながら、男の膝の上で上下に跳ね、太い腕の中で華奢な裸体を泳ぐようにくねらせて、絶頂へ向けて一気に舞い上がっていく。

――ダ、ダメぇ！　こんな、もう……もう……！

時間がない、耐えられない。絶対無敵の魔宝怪盗ともあろうものが無様に失敗し、機械相手に恥辱の絶頂を極めさせられてしまう――屈辱と焦燥、そしてどうしようもない快楽の波に、マジカルシャドーは悔しげな涙を流して煩悶する。

「……タイムオーバー。入力失敗デス」

「な、えぁっ！　そ、そん……きひぁあああ⁉」

敗北を告げる冷酷な音声に、少女の意識を支えていた気力が断ち切られる。瞬間、股間を責めていた機蟲が力を増し、失敗した少女を叱責するかのように深く膣内にめり込んだ。

「あ、あっはあぁ！　くぁ、ふ、深いぃぃ――！」

ぐじゅ、ずぶぐじゅじゅっ！　気力を失い抵抗力を減じた肉体を一際深く抉り抜かれ、抑えようもない悦虐が迸る。とろとろに蕩けている柔襞をエナメル生地で愛撫され、太いジャンクパーツが膣内にまで侵入してくる。いままで味わったこともない虐悦に、紫髪を振り乱して悶え狂うマジカルシャドー。同時に搾乳触手も動きを激しくし、臍責めの細紐もより深くまで責めを進めてきた。気力を挫かれたところでさらに肉体まで苛烈に虐め抜かれ、心身ともに追い詰められた少女に、もはや耐えることなどできるはずがない。

――ダ、ダメ……！　こんな……こんなの気持ちよすぎて……ま、またイキ……っ！

ぶっしゃあああ！　噴出した愛蜜が、挿入ダイアを妖しく濡らす。もはや、これが何度目のアクメなのかもわからない。だが、少女が何度絶頂しても、機械仕掛けの快楽尋問は決して止まらない。

「ひいいィ……くぁはぁぁ！　ま、まはぁ……っあぁ！　いひゃぁァ、も、もぉ休ませてぇ……お、おねがひぃ……あふぁぁ、ふぅあああ～！」

もう、イクのが止まらない。苛烈な尋問から正体を守りきった代償は、あまりにも大きかった。冷酷な機械音が木霊する独房で、マジカルシャドーはただ一人、終わりなき絶頂に囚われ続ける。

「らめぇぇ、また、またイクのぉ……も、もおらめぇ！　イキすぎてぇ……く、狂っちゃうふぅううぅ～！」

閉じられた扉が開かれるそのときまで、少女は数えきれない絶頂を極めさせられ続けるのだった――。

じびゃばばあぁぁっ!!　ばぢゅばだばっ！　びゅどびゅどびゅばばぱぁぁあぁっ!!

まるでガトリング砲のように無数の弾丸が開ききった膣穴から飛び散り、華族たちの顔面に硬い小粒をぺちぺちと叩きつける。そして白濁した飛沫からは淫媚香と牝蜜が溶け混じった、腐敗した果実に香り高い名酒を加えたようなおぞましく魅惑的な狂臭がむわんと立ちのぼり、彼らの鼻粘膜にこびりついた。

溜まりに溜まった異物を排出した解放感に、陰核絶頂の際限ない高ぶりがようやく静まりをみせた。

「ふぁあ……はぅあああ……」

脱力した喘ぎを垂れ流し、咲妃はぐにゃりと横たわっていた。それでも陰部からは膣内の残弾が、液汁にまみれてぽろぽろと産みこぼされ続けている。

白目を剥き、びくん、びくん、と蠢く痴態を欲望にギラつく眼差しが舐め回していた。混ざり合うことで淫媚香の威力を高めてしまった彼女の膣蜜は、破滅的な催淫臭を振りまいた。そして吐き気を催す一歩手前の、狂気に満ちた陶酔へと彼らを導いてしまったのだ。

（ひぃ……あぁ……）

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
©KILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/